

職員による自己評価

A 「業務改善」について

- ・VTR 勉強会など日々の療育で感じる課題などを共有し学ぶことができる。ただ、研修によっては開催場所や時間が固定されており参加しにくい場合もある。
- ・各業務、行事などで必ず反省会を開き次回に活かせるようにしている。

B 「適切な支援の提供」について

- ・定期的にプログラム等を見直し、クラスの状態に基づき様々な内容を取り入れている。

C 「関係機関との連携」について

- ・引継ぎなど必要な情報を共有する場合、口頭だけでなく、実際に使用している物や写真を活用し共有している。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・今年度はコロナ感染のため保護者の来所の回数が減っているが、連絡ノートや電話等でも共有を図るようにしている。
- ・なるべく口頭での伝達ではなく、文面で伝えるようにしている。

E 「非常時等の対応」について

- ・毎月の避難訓練で非常災害時に利用者がどういった状態になるのかを想定しながら備えている。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

- ・できているとの評価は94.4%。
- ・いろいろなプログラムが実施され、子どもの体験が増えてありがたい。
- ・もう少し体を動かすプログラムを増やして欲しい。

B 「保護者への説明等」について

- ・できているとの評価は88.8%。
- ・連絡帳が省略されたため（コロナ感染のため仕方ないが）、状況を理解することが手薄になり残念。
- ・マチコミの配信がこまめでとても良かった。

C 「非常時の対応」について

- ・できているとの評価は83.1%。
- ・感染マニュアルは定期的に説明があるが、緊急時、防犯については知らない。

D 「満足度」について

- ・満足との評価は89.9%。
- ・先生が大好きです。
- ・クラス担任の数を増やした方が良い。
- ・登園回数が減り、支援が足りなく感じる。

事業所内での分析

- コロナウイルス感染拡大防止による事業縮小のため、療育センターとの連携が取りづらくなったことによる、保護者の不満・不安が大きかったと感じる。
- 親同士の交流が少なかったという意見があった。（新型コロナウイルスによる影響）

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を港南地域療育センター全体として実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 新しいスタイルの療育サービス、保護者支援など、検討し実施する。
- 保護者への情報発信について、迅速及び確実にできる工夫を考える。
- 長期休園となった場合の児のフォローについて検討する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していたサービスが十分に提供することができなかつたと痛感している。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないようセンターとして工夫を凝らしてきた。今後も、新しいスタイルでのサービス提供について、全職員で検討し、実践していきたい。また、地域資源との連携もしっかり保てるように運営していきたい。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 戸村毅

職員による自己評価

A 「業務改善」について

- ・保護者からの意見を取りまとめ、業務改善につなげていると感じる。
- ・職員の資質向上のため、研修会が複数回設定されるなど工夫されている。

B 「適切な支援の提供」について

- ・必ず毎日ミーティングの時間をとり、導線を確認する中で、役割分担や子供一人ひとりのねらいなどを確認している。

C 「関係機関との連携」について

- ・子どもの主治医や協力医療機関について保護者と情報共有をし、緊急時のときを含めて連絡体制を整えている。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・目標や具体的支援について一人ひとりの保護者に説明を行うとともに、保護者からニーズや意見を聞き、同意を得たうえで支援計画書を作成している。
- ・保護者会等を開催することにより、保護者間での必要な情報交換や連携が取れていると感じる。

E 「非常時等の対応」について

- ・保護者から子どもの健康面の状況について聞き、服薬や発作など必要な情報を把握するようにしている。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

- ・できているとの評価は94.7%。

B 「保護者への説明等」について

- ・できているとの評価は84.2%。
- ・次年度の子どものプランについて、担任と園長で提案内容が一致せず困惑した。

C 「非常時の対応」について

- ・できているとの評価は68.4%。

D 「満足度」について

- ・満足との評価は94.7%。

事業所内での分析

- 「非常時の対応」の評価が低い。緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等について、保護者に充分、周知・説明がされていなかったと判断する。
- 家庭での様子、また療育センターでの様子を、日々、保護者と情報共有し、共通理解ができるように工夫していることが、満足度を得られている要素だと判断する。
- 職員によっては、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等との連携が充分ではないと思っている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を港南地域療育センター全体として実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 非常時の対応について、不安を抱いている保護者もいらっしゃる。各種マニュアルの周知、非常時における対応など、具体的内容について、保護者への説明が必要である。
- コロナ禍における、肢体不自由児への対応は多くの困難を伴う。このような中でも、保護者に寄り添い、子どもたちへの対応について、センターとしての取り組み方法を検討し、できることから実践していくことが必要。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していたサービスが十分に提供することができなかつたと痛感している。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないようセンターとして工夫を凝らしてきた。今後も、新しいスタイルでのサービス提供について、全職員で検討し、実践していきたい。また、地域資源との連携もしっかり保てるように運営していきたい。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 戸村毅

職員による自己評価

A 「業務改善」について

- ・アンケートや面談を通して保護者から出た意見の中で、クラスで取り入れられる部分は取り入れようと意識している。

B 「適切な支援の提供」について

- ・子どもの興味関心に合わせプログラム活動を設定している。また場合によっては昨年度との変化を見るために同じプログラムを取り入れ保護者に確認できるような工夫をしている。

C 「関係機関との連携」について

- ・保護者の希望を確認し、就学先の学校と引継ぎを実施している。これまでの経過や状態、対応について情報共有を行い連携を図っている。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・療育前に保護者に活動のねらいを具体的に伝えたり、対応を共有している。また、懇談等で内容を振り返る際に個々の取り組みを伝えている。

E 「非常時等の対応」について

- ・今年度は、感染症対策や嘔吐物処理のマニュアルが更新され、対応手順についての講習も実施した。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

- ・できているとの評価は98.1%。
- ・毎回プログラム内容が違うので、子どもも楽しみに通っている。

B 「保護者への説明等」について

- ・できているとの評価は80.8%。
- ・とても丁寧な支援をしている。
- ・コロナ感染の影響で、期待していた横のつながりがほぼ無く残念。

C 「非常時の対応」について

- ・できているとの評価は50.0%。
- ・避難訓練が充分できなかった。

D 「満足度」について

- ・満足との評価は100%。

事業所内での分析

- 「適切な支援の提供」「満足度」については、共に保護者から高評価をいただいている。現在の療育の進め方が認められていると感じる。今後も、質の高いプログラム等を提供していきたい。
- 今年度は新型コロナウイルス感染の影響で予定していた避難訓練などが定期的実施できなかった。この事が、非常時の対応の評価が低い要因の一部になっていると考える。
- 子どもの様子で気づいた点、保護者からの聞き取りなど、担任間で情報を共有している。
- 予定していたプログラムの縮小を余儀なくされた今年度は、限られた条件の中で、新しいスタイルのサービス提供にチャレンジした1年だった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を港南地域療育センター全体として実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 保護者の評価が低かった「非常時の対応」について、今後は、定期的な避難訓練等を実施するとともに、災害時における連絡方法、プログラム中における緊急時の対応など、明文化し理解を深めていただくよう工夫いたします。
- 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、現行の療育サービスの提供方法を見直し、新しいスタイルでのサービス提供について検討し、できることから早めに取り組んでいきます。
- 現行の園訪問のシステムを検証し、より良い形での連携が取れるよう検討し、できることから早めに取り組んでいきます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していたサービスが十分に提供することができなかつたと痛感している。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないようセンターとして工夫を凝らしてきた。今後も、新しいスタイルでのサービス提供について、全職員で検討し、実践していきたい。また、地域資源との連携もしっかり保てるように運営していきたい。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 戸村毅